



民主 苫小牧号外
2026年
7.19
No.1149

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!



「人間展示」

10月12日（祝）に『アイヌ先住権の集いin白老』を開催します。主催は日本共産党北海道委員会と苫小牧地区委員会です。2019年に、アイヌ民族を「先住民族」と明記したアイヌ新法が作られましたが、アイヌ民族の権利は認められていません。アイヌ民族の正しい歴史を知り、先住民族としての権利と尊厳を回復することが必要です。その一助になればということで企画します。

先日、私は『集い』の担当者と一緒にウポポイに行ってきました。目的は、『アイヌ民族と博覧会』という特別展を視察するためです。2025年の大阪万博に至る約150年のアイヌ民族と博覧会を追う企画です。

特別展でまず目に飛び込んできたのは「人間展示」と

いう文字です。日本で最初に「人間展示」を行ったのは1903年に大阪で行われた『内国勧業博覧会』で、人類学者である坪井正五郎氏の監修です。客を呼び込む「見世物」の位置づけだったと記しています。場外余興として『人類学術館』を建設し、アイヌ民族だけではなく沖縄県民、台湾、朝鮮、清国、インド、ジャワ、アフリカなど32人を生活させ観覧しました。「日本の植民地主義を正当化する差別的なまなざしを批判しなければならない」とも記されています。

その後も、アメリカ（1904年）、イギリス（1910年）、東京（1912年）、大阪（1913年）、札幌（1926年）と「人間展示」は続きます。当時国や博覧会主催者は、日本は文明国であること誇示するために、アイヌを「未開の先住民族」として陳列し観覧させたそうです。しかしアイヌ民族側には、自らの文化を伝えるために、あるいはアイヌの子ども達の教育施設を建設する資金を得るために、主体的に「人間展示」に参加する方もいたそうです。

やがて、アイヌ民族は“北海道の観光”という意識が高まり、「アイヌと熊」がイメージとして使われます。そして、観光と出会いと交流によって、アイヌ民族への理解が深まり、ついに2025年の大阪万博では、自らの企画で大規模な素晴らしいアイヌ舞踊を披露しました。

博覧会の歴史通し、あらためて国が取ってきた差別的政策のひどさを知りました。国は、過去の歴史への謝罪をし、アイヌ民族の権利を認めるべきです。過去の誤りを認めることが、あらゆる差別の一掃につながります。